



↑ 会報QRコード

くろつち便り

今月の内容

年頭の挨拶／学習会・忘年会(11/29)／九条会意見
広告／金曜集会(1/9-桐生悠々「言うべきこと〜」)
／野草折々81(ピカサ)／Series学校現場③／ごてれ
つの独り言④／共助会GG大会(2/15)／共助会料理
教室(12/21)／ **次回金曜集会は3/6日/17:00〜**

年頭の挨拶



新年を迎え、くろつち会会員の皆さんも気分を新たにされたことでしょう。

衆参選挙で自民党を少数与党に追いやったにも関わらず維新を取り込み自民党は過半数を超えてきました。

高市政権は女性初の総理大臣ということもあって支持率は極めて高い状況です。彼女はトランプ大統領と腕を組んだり、アメリカの空母の上で小躍りして喜びを表現しました。彼女の台湾問題発言から中国とはさらに嫌悪な状態にまでなっています。日本も核兵器を持った方が良く

発言する政府高官。国連で核廃絶や核軍縮を訴え続けている日本政府の高官が発言する言葉ではありません。対話による外交など程遠い感じです。

トランプはベネズエラの大統領を拘束し、この国を管理運営していくと発言しています。今後、世界はどうなっていくのでしょうか。

毎日腹立たしいニュースが続きますが、私たちくろつち会はしっかり地に足をつけ前に進んでいきましょう。

新年早々、重苦しい挨拶になりましたが、元気でこの一年を乗り切りましょう。



5/3南日本新聞 護憲意見広告

伊藤周平さん(鹿大教授)が鹿児島4区から立候補のニュース。

伊藤さんは鹿屋市で2017年9月に貧困問題で、2019年4月には安倍改憲の問題点について講演されました。護憲勢力の伸長のために応援したい。

一方で、かごしま九条の会が毎年実施している南日本新聞への「9条を守り活かそう」の意見広告の募集が始まっています。昨今の改憲の動きは何としても阻止したい。是非多数の賛同者を得たいです。

個人1口 千円以上(団体 5千円以上)

振込締切 4月15日(水)

(個々人で対処されてもいいですが振込手数料も馬鹿にならないので) くろつち会会員の分は今年は樋園光子が一括して郵便振込で送りたいと思います。何らかの方法で樋園光子まで届けてください。

住所 鹿屋市新川町180-4
〒890-0014
Tel/Fax 0994-43-1141



↑ 文部省「あたらしい憲法の話」挿し絵

2学期末の公務処理はいつものようにICT機器に振り回された。出席を管理する「ブレンド」なるアプリから、「通知表に反映できないよ！」とみんなが戸惑っている。そんな中、臨時的任用教員は余裕すら見せながらお茶を飲んでいる。無関心さ。しかし、いよいよ終業式が近づいてくるとさすがに「出席欄はどうするんだろ？」と助けを求めることになる。以前は健



学校現場から
シリーズ その36
国見小 関下俊郎

康観察簿から月毎にチェックをし一人一人の分を記入していた。その頃は期日と処理時間を計算して、何ら慌てることもなく？学期末の公務処理をこなしていた。ICT機器に頼りすぎて緊急の対応に追われるところをこれまで幾度となく見てきた。結局は「通知表に反映できない。」というところで一つ一つ入力することになったのだ。臨時的任用教員にとつては最初からそれではなかったのと思った。

新学期が始まると元気な子どもたちの声が響きわたる。寒さの厳しい朝、冷たい手をこすりながら子供たちと朝の駆け足をやっていると、1人の1年生がいつものように縄跳びの練習に励んでいる。駆け寄って話を聞くと、どうやら2重跳びができないらしく繰り返し

挑戦している様子。少し前なら軽やかに？跳んで見せることができたのだが、残念ながら口でのアドバイスに留まった。何度か繰り返しているのを見守っていると、真っ赤な頬でうれしそうに「やった！と。たった1回だけの2重跳びだが嬉しそうに顔にこちら

臨時的任用教員...パート⑦



共助会 G G 大会

下記の通り共助会グラウンドゴルフ大会が計画されました。ご家族、お友達等ご一緒にお越しください。

期日 2月15日(日)

予備日 2月22日(日)

場所 鹿屋 G G 場 D コース

参加費 300円

当日の日程

受付 12:30~13:00

開会式 13:00~13:10

競技 13:20~15:10

閉会式 15:20~15:30

参加申込メ切 2月6日(金)

ファックス、または電話等

でお申し込みください。

申込先 地区運営事務局

矢野 務

〒893-0023 鹿屋市

笠之原町7235-5

TEL・FAX 0994-40-2375

携帯 090-5736-6677

詳細は別途案内をご覧ください。



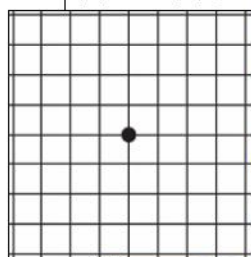
ぶつくさ言う人 こてれつの独り言 42

◆眼病—情動回避と現実逃避

TVはどこもかしこも高市、高市と面白くない。チャンネルを心理学で言う情動回避(回避行動の1つで自分の心や身体に不快な事態が起こらないようにすること)して辿り着いたのが、かねて滅多に見ない2チャンネル「きょうの健康」。内容は「加齢黄斑変性症」という耳慣れない眼病で、全く興味は沸かなかったが「加齢」という文言に惹かれて見ていた。

TVに案内されるままに片目ずつ簡単な自己診断をした。格子状の表の中心の黒点をじっと見つめて、方眼が歪んで見えたり欠けて見え

Amsler Chart(Grid)→



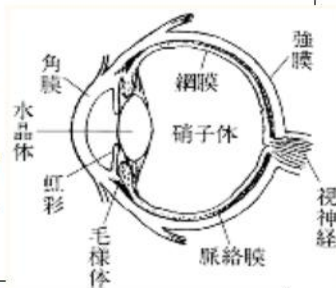
たり波打って見えたり、或いは中心部が黒く見えたりしないかどうかという検査だ。

実施して驚いた。僕の場合は右目は何ともないのだが、左目だと本来水平に見えるべき線が、少し波打って見える。

それからは真剣にTVに聴き入った。この病で分かったことは、眼球の奥深く網膜上の「黄斑」に異常があるということ、最近40代にも増えていて、日本人には進行が速い滲出型が多く、治療は硝子体に数週間おきに注射するが何年もかかること、早めに眼科にかかった方がいいということ等だ。そもそも回避行動で選んだ番組のはずが、返ってストレスが増す結果となった。最悪の事態を何とか避けたい。幾つかシナリオを描いてみ

た。1番は、検査してもらったら単なる乱視だったというシナリオ、次は西洋人に多いという萎縮型、これは進行が遅いから放置して様子を見ていくというシナリオ。こんなことを想像しているようじゃダメだ、情動回避を乗り越えて現実逃避になっている。

11月、眼科で検査して診察してもらった結果は予想していた病名と異なり、又々初耳の「左黄斑上膜」で弱い白内障のおまけ付きだ。同時手術となると注射だけじゃ済まないようでぞっとする。暫く考えないようしておこう。結局これも現実逃避かな。



野草折々-81-

飯山春男さん紹介の身近な植物シリーズ

ピラカンサ
(バラ科)



pyracanthaはギリシャ語のpyra(炎) + acantha(棘)が語源。

炎のような真っ赤な実をつけ、枝には鋭い棘がある。

2026年1月18日 川西町の人家の垣根

くろつち会学習会

午前中の学習会は
「教育の現状と課題」

を鹿教組書記次長の
朝野竜輔さんが提起。

以下その要旨(紙面の都合で一部)

1. 今の学校の現状

(1) 子どもの現状はどうか。

①不登校の増加

2020年2320名→2986→3743、
4570→'24年5676名と年々増加。

学校が子ども達にとって安心して学ぶことができる「居場所」になっていないのでは。

②膨れ上がりすぎた指導内容と授業時数

2002年～2010 (945時数)、
2011年～2019 (980時数)、20
20年～ (1015時数)

教科書のページ数が20年間で1.5倍(東書5年、算数)。その結果「教科書が終わらない」「余剰時間も教科に」「詰め込みの授業に」「理解

できていない子がいても先に進んでしまう」

この30年間で詰め込まれてきたもの

全国学調、鹿児島学調、対策テスト、ドリル、スキル、市販テスト、膨大な宿題、観点別評価、タブレット、教科道徳、通知表、外国語、各種委員会、フッ素洗口、市教委訪問、朝学習、体力測定、プログラミング、ICTなど。

この30年で失われたもの
教職員が教育論議をする時間、教材研究の時間、学級づくり、クラスレク、学級の話し合い、自分で考える時間、放課後、授業が早く終わって遊ぶ時間、思考すること、批判すること、子どもと語る時間。置き去りにされる子ども。

(2) 教職員の現状

①超過勤務の実態はこの3年間で横ばい状況。多くの教職員が依然として違法状態の中で働いている。

②精神疾患、若年退職者と定年前退職者の増加。若手とベテラン層の退職が増加。

2 学校の働き方改革(鹿教組の取り組みの成果)

①土曜授業の見直し

鹿教組と県教委が公式交渉。土曜授業「実施する場合、年3回程度まで」と県教委が通知。

②始業式と入学式を別日に

③行事の精選、縮小

運動会の半日開催、通知表を年2回、(通知表年1回のところも)、定期テストから単元テストへ(中学校)

3 給特法廃止・抜本的見直し

①2025年6月11日 参議院本会議で可決、法案成立

②教員の処遇改善として、教職調整額の4%から10%への段階的引き上げ

③給特法等の一部「改正」にもとづく条例策定等に係る要求書を提出して教委との交渉。

(報告 野口幸四郎)

忘年会

午後はお待ちかねの忘年会。
前野県議、谷口支部長の挨拶の後、飯山春男さんの音頭



世論調査で高市は支持率が高いと言いつつ、60代では高くない。戦争を知っている世代だからだ。若者にも広めていく必要がある。平和な世を目指して、カンパイ!

会場に「カンパイ!」の声が広がりました。



「今ん現職は大変じゃなあ」と学習会や谷口支部長の挨拶を受けての話。また「おはんな子どもはどげんした」「今、東京に・・・」等々近況を話す声。かと思うと、平成が始まった頃の大昔?の話。或い



は現役時代の話。終盤には車座になり、話題はあっち飛びこっち飛び、尽きることがありません。(次頁に続く)



(前頁忘年会の続き)

参加者は三十数名ぐらいで往年の半分ぐらいだったでしょうか、それでも皆、座を満喫していました。

あっという間に14時近くになり、非情にも進行の「お開きの時間が・・・」の声だ(店側従業員の働き方改革の一環とは言え仕方ない)。



組合歌は日高南海男さんの音頭で高らかに響かせました。

最後の締めは上蘭紀男さん。



アメリカに巻き込まれて参戦させられてはいかん。最後に言いたいのは高市をぶつつぶせ。自民党政治をこのままのさばらせていてはいかん。それを祈念してガンバロウ!



高市政権をぶつつぶせ、ガンバロウ!

料理教室

12月21日、東地区学習センターでの共助会料理教室に今年も参加しました。

講師は宮地直子さん。

「冬を乗り切るビタミンたっぷりメニュー」ということで

- 椎茸のレンジシューマイ
- 擬製豆腐
- 小松菜と里芋の味噌和え
- 柚子胡椒風味のマリネ
- 白菜とリンゴの甘酢和えを作りました。

初めに講師の説明を聞き、

各グループでレシピを見ながら取り組みます。グループそれぞれ、グループの中でも野菜の切り方、作る順序など個性が出ます。初めて会った方とも和気あいあいと作業が進むのが実に楽しいのです。もちろん、後の会食も。

同じ料理を作ったのに、盛り付けを見ると、まるで別の料理のように見えます。

毎年、人数集めに苦労されるであろう矢野先生に感謝!

来年は、あなたもぜひご参加ください。

(文・写真 樋園光子)



盛り付けの異なる出来上がり料理

金曜集会

◆言うべきことを言うのは義務

明治から昭和にかけて活躍した桐生悠々という抵抗のジャーナリストを最近知った。「関東防空大演習を嗤う」(Kindle版で無料)は、関東で計画実施された防空大演習は何の役にも立たないという軍部批判の内容だ。桐生はこの記事で逮捕されたりもしたが反骨不屈の精神を貫いている。

この記事は現代の、台湾有事を煽って実施の共同訓練にも相通ずるところがあるように思えてならない。例えば全島民避難計画など桐生もきつと嗤うに違いない。

嗤って済ませればまだいいのだが、特に原発問題はそういう訳にはいかない。

今年最初の金曜集会は夕暮れ時の寒い中、リナシティ前で1月9日16時半から実施された。(冬場、帰りが暗くなるので実施時間を早めています)

桐生の次の言葉は意味深長で、僕は衝撃を受けた。

「言いたいことを言うのは権利だが、言わねばならないことを言うのは義務だ」

私どもが金曜集会で主張していることは、核兵器廃絶、原発廃止、鹿屋・鹿児島・日本を戦場にしない、そのために平和憲法を守る等々、言わねばならない当たり前のこと

ばかりです。

桐生は「言いたいことを言うのは愉快だけど、言わねばならないことを言うのは苦痛を伴う」(「言いたいことと言わねばならないこと」Kindle版無料)とも言っています。桐生は物的・精神的苦痛を味わった。桐生ほどではないにしろ金曜集会もある意味苦痛だが、継続できたと思う。(苦痛などと言ったら桐生が笑うだろうが。)(樋園:Kindle版はAmazon提供。著作権切れ作品は無料が多い)

